

2016
11.15
北国

「なにやってんだ」。志賀原
第2号機の原子炉建屋に雨水が
流入したトラブルについて、原
子力規制委トップが北電との会
合で放った一言である。機密性
の高い建屋内に水が入り込むと
いう事態に「開いた口がふさが
らない」といった感じだった。

元金大教授の委員は、北陸で
おなじみの「弁当忘れても傘忘
れるな」という言葉で雨に対す
る認識の甘さを戒めた。この委
員が意図したかどうかは別にし
て、北電からすれば皮肉たっぷ

傘を忘れた代償

りに聞こえただろう。

原因は、排水設備の異常を知
らせる警報が鳴っても現場が必
要な対応を取らなかったなど、
お粗末な中身だった。そのため
か、規制委からも地元からも怒
りを通り越してあきれたような
雰囲気を感じられる。

流入した雨の総量は約660
0㎥だった。多いのか少ないの
かぴんと来ないが、一方で流出
した信頼はどれだけだっただろ
うか。傘を忘れた代償は高くな
った。
(清水義晃)